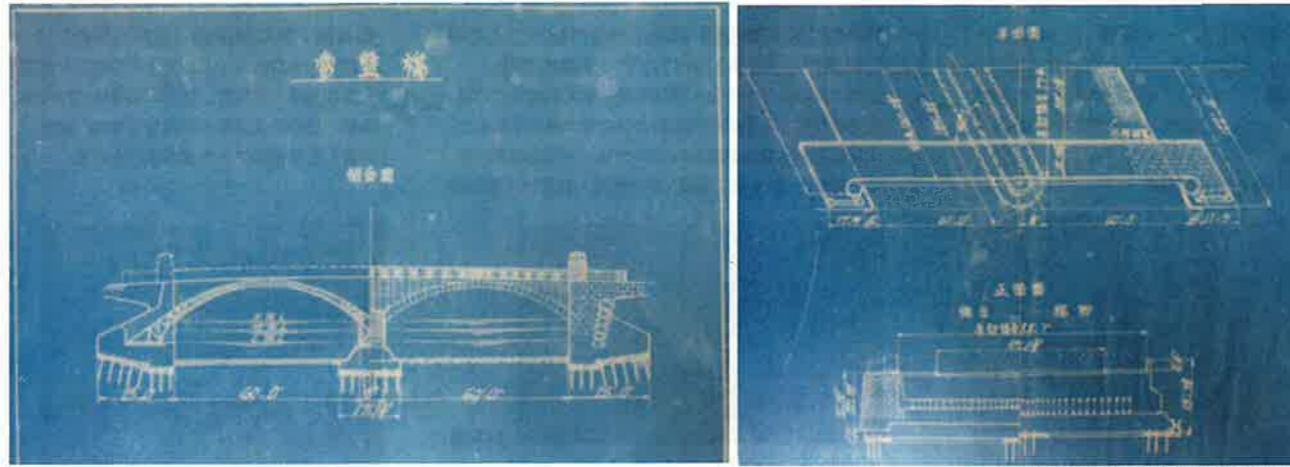


参考資料：公開されているものを主催者がレイアウト

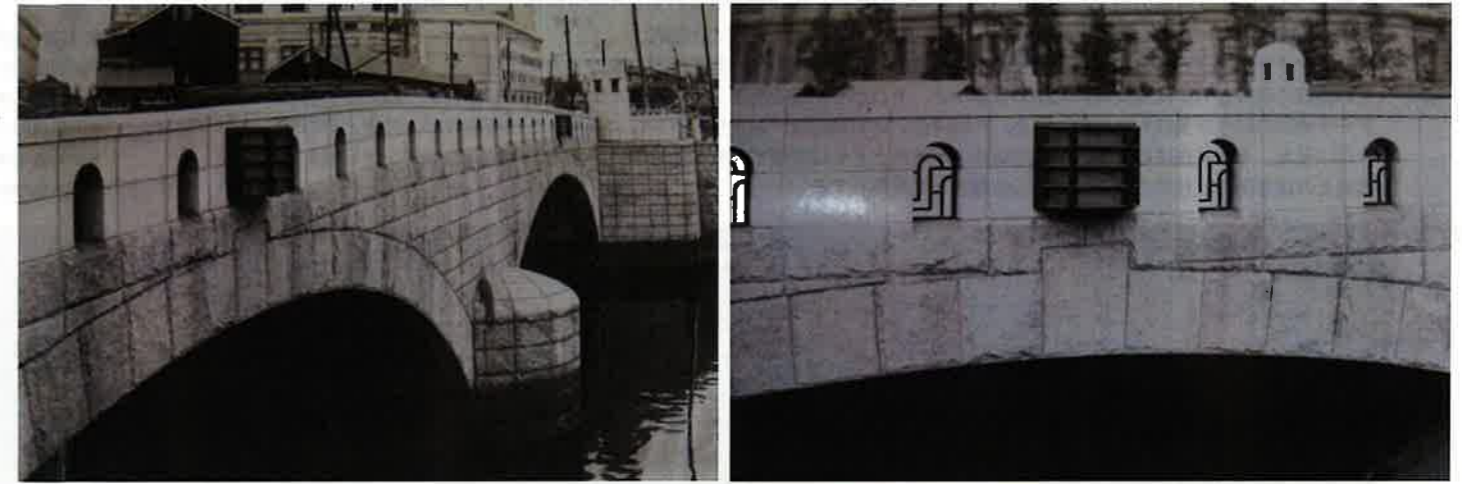
震災復興当時の常盤橋

常盤橋一般図



東京大学 社会基盤学専攻図書館所蔵写真集より

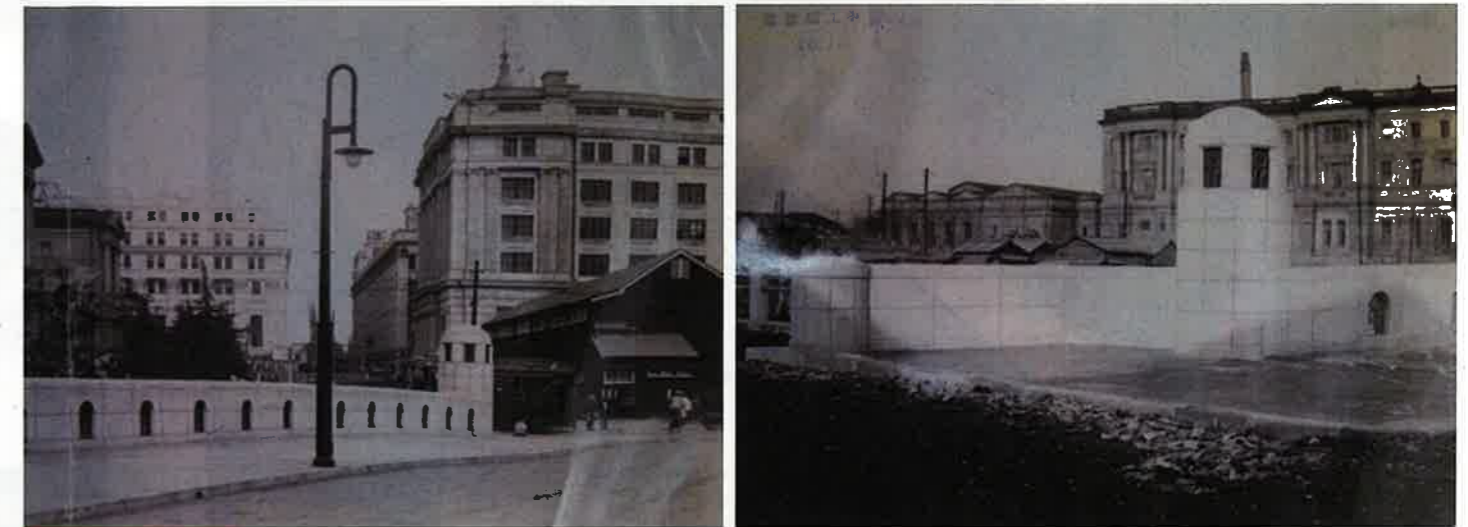
完成直後の常盤橋と各部の詳細



建造中の常盤橋

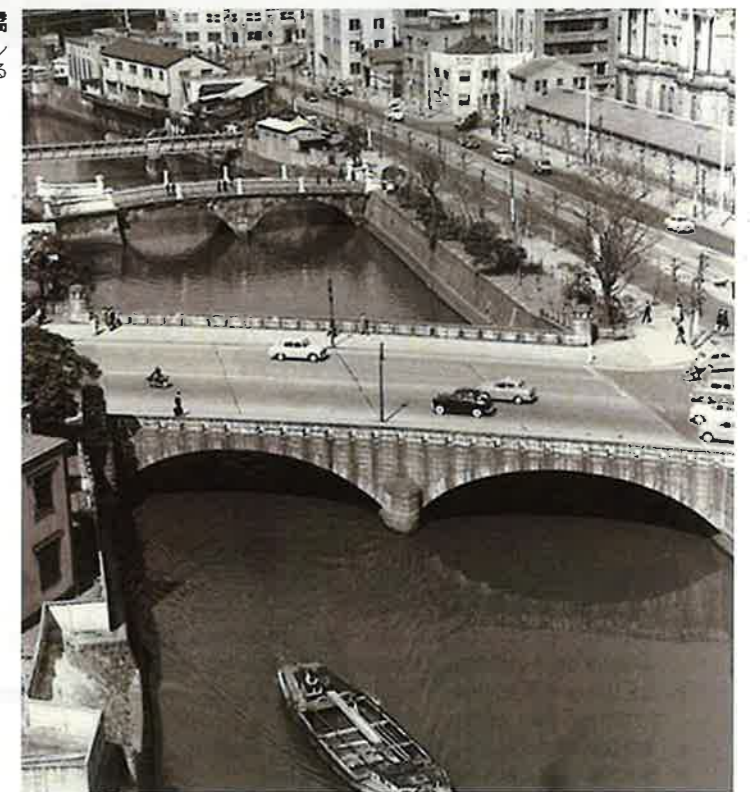


東京大学 社会基盤学専攻図書館所蔵写真集より



東京大学 社会基盤学専攻図書館所蔵写真集より

昭和初期の常磐橋と常盤橋
近代都市東京の市街橋の設計思想の変遷を象徴する3橋のトキワシ
*写真上部に、榊島正義設計の新常盤橋が見切れている



中央区京橋図書館所蔵古写真より

歴史性・場所性に配慮した市街橋設計の伝統を伝える旧外堀のアーチ橋群

外堀という江戸時代以来の地形や場所性、水上交通に配慮し、近代都市東京のあるべき市街橋の姿を、明治 - 大正 - 昭和初期の3時代を通じ模索・実勢してきた軌跡が見られる、国内でも他に類を見ない場所。

アーチをデザインコードとし、帝都東京の都市空間の中に調和ある橋梁群を架設し続けてきた伝統。

その伝統の萌芽ともいえる文明開化期の常盤橋と、それから半世紀を経て架設された常盤橋をはじめとする震災復興橋梁のアーチ橋群の数々が現在も外堀跡に残る。外堀跡のアーチ橋群は、歴史性・場所性に配慮した市街橋設計の思想とその伝統を今日に伝え、その背後には、群としての調和と、時代とともに変遷する橋梁架設技術の中で、前時代の様式を乗り越えるための挑戦とのほざ間に近代のエンジニアたちの葛藤が見え隠れする。



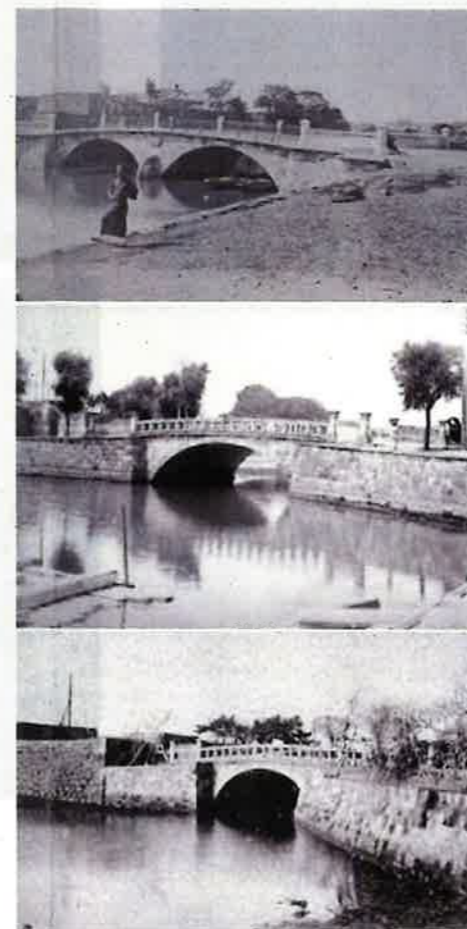
近代都市東京の市街橋の設計思想の変遷を象徴する2つのトキワシ

外堀跡におけるアーチ橋架設の伝統と継承

第Ⅰ期：文明開化期の石造アーチ橋群 (全13橋)

同時期に架設された全13橋のうち、江戸城見附跡に架設された鍛冶橋・呉服橋・常盤橋の3橋は、他の石橋とは異なり官費にて建造され、特に高欄周りの意匠に等にはない特徴を備える。

⇒場所性の尊重とアーチ橋伝統の萌芽。



第Ⅱ期：東京市技師 榊島正善らの設計による明治後期から大正期にかけてのアーチ橋の架設

江戸以来の外堀の地形・運河利用に加え架橋地点の場所性や隣接する既設の橋梁および前身の橋梁である文明開化期の石橋を尊重したコンクリート構造のアーチ橋を設計。(日本橋・高橋・新常盤橋・呉服橋・鍛冶橋)

第Ⅲ期：復興橋梁群 (復興局架設)

先輩技術者榊島らによる大正期の実践を尊重・継承した復興橋梁の設計。個々の架橋地点の地形、地盤、景観、都市的文脈等の架橋地点毎の環境を尊重した多様なアーチ橋が架設される。



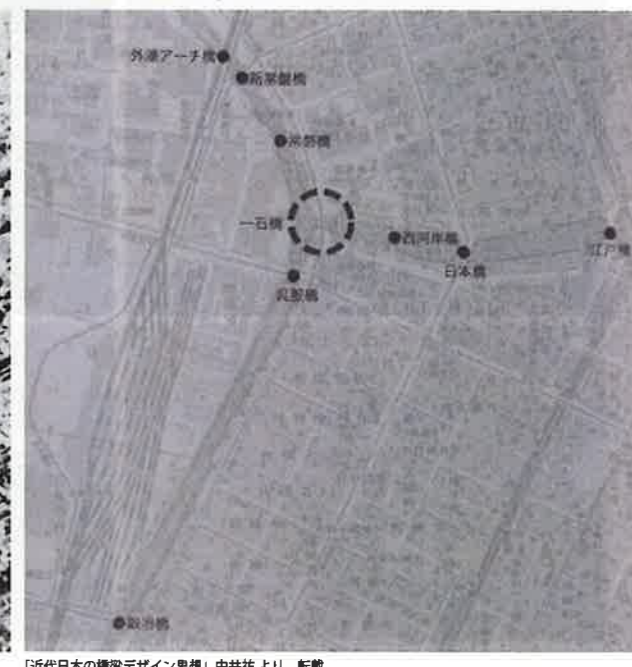
中央区橋図書館所蔵古写真より

「近代日本の橋梁デザイン思想、中井祐」より、転載

関東大震災前の常盤橋周辺の様子



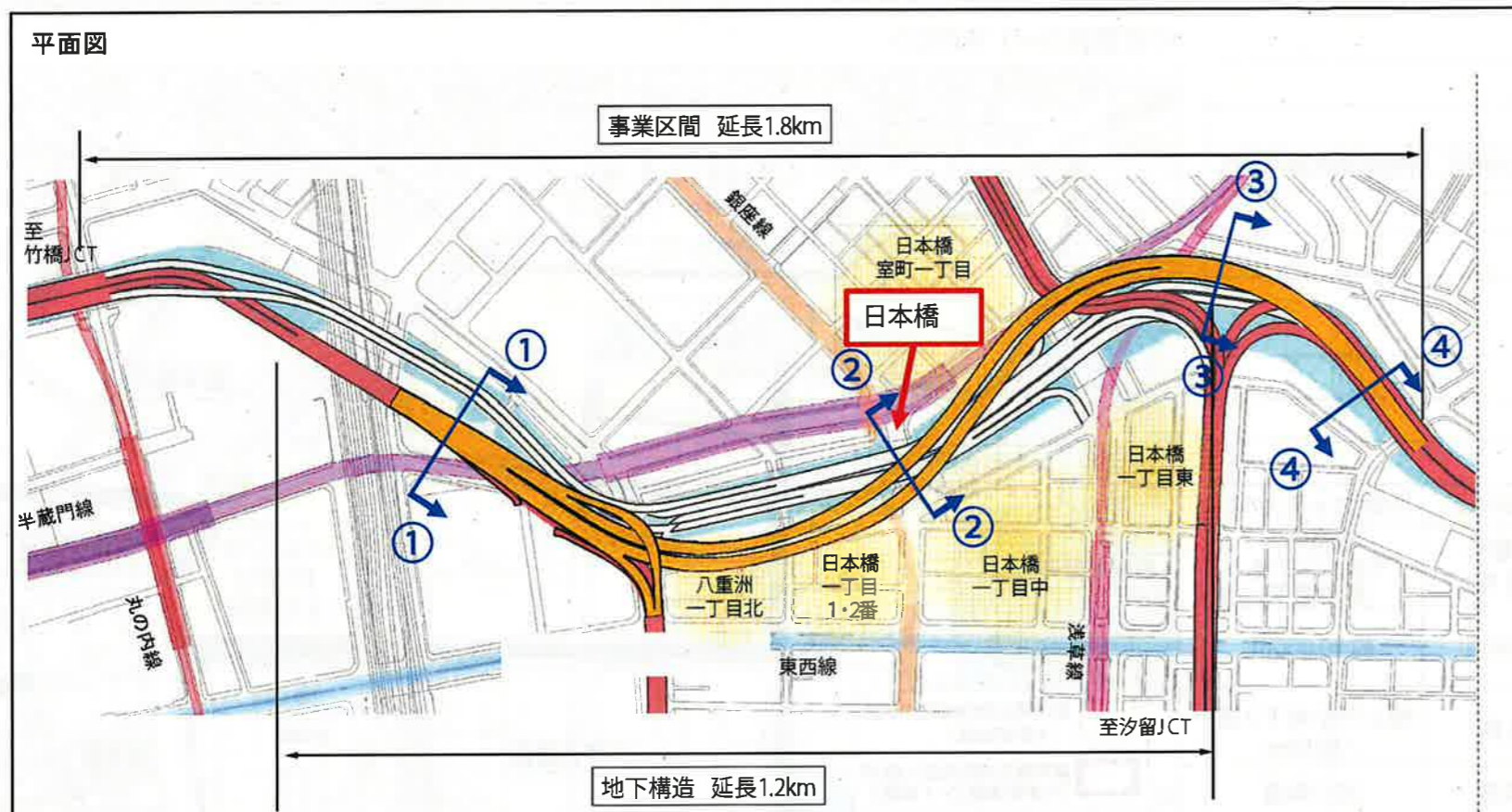
中央区橋図書館所蔵古写真より



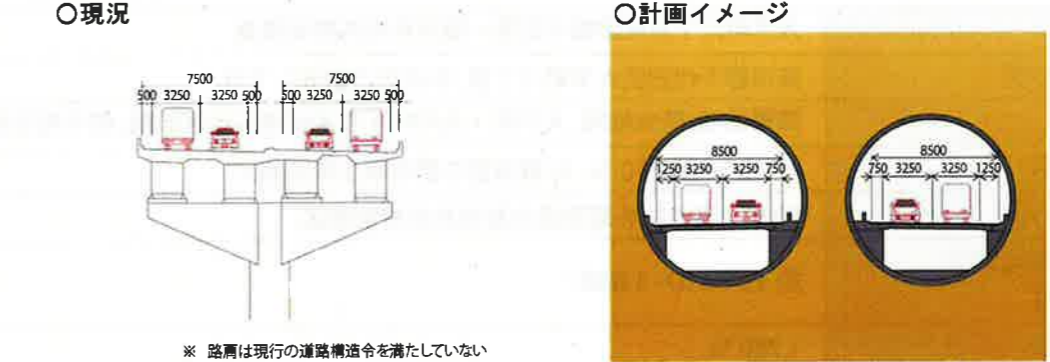
「近代日本の橋梁デザイン思想」中井祐より、転載

【参考文献】

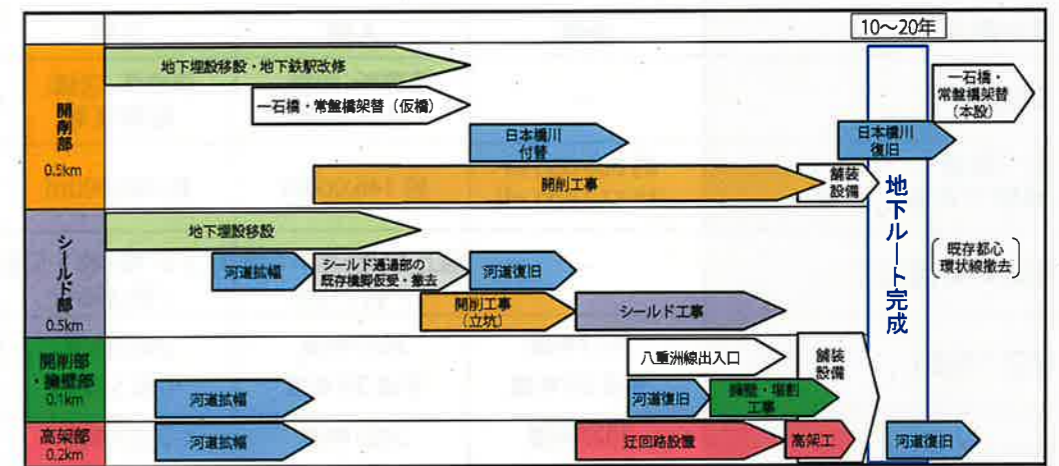
1. 「橋梁と基礎」2006-8、設計思想の成熟へ向けて、中井祐
2. 土木史研究 論文集 vol.24 2005、街路・運河・公園の復興計画との関連性から見た帝都復興橋梁の型式配置計画に関する考察、福島秀成・中井祐
3. 土木技術 65 巻 5 号 (2010.5) 土木技術アーカイブス「隅田川橋梁の形式」田中豊著、「復興帝都の橋梁」成瀬勝武、中井祐
4. 近代日本の橋梁デザイン思想、東京大学出版会、中井祐
5. 東京の橋 - 水辺の都市景観 -, 鹿島出版会、伊東孝



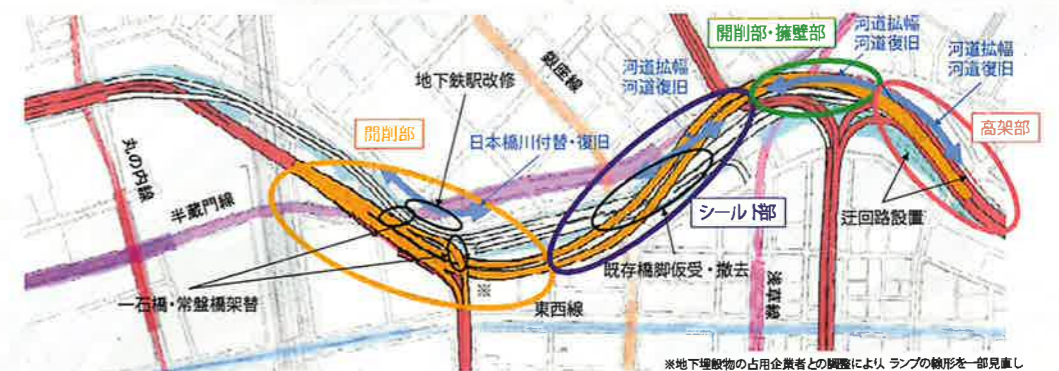
標準断面図



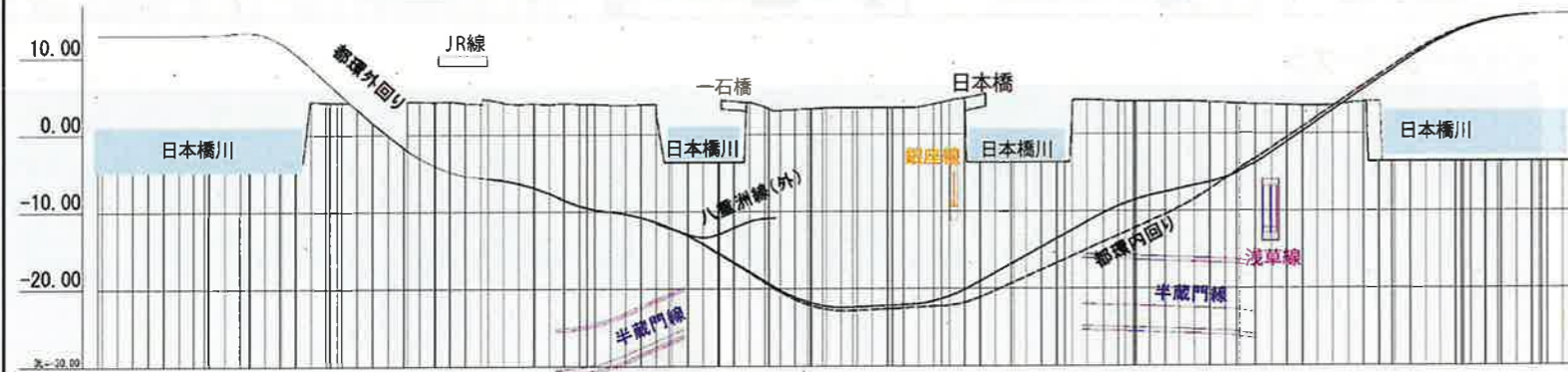
工程イメージ



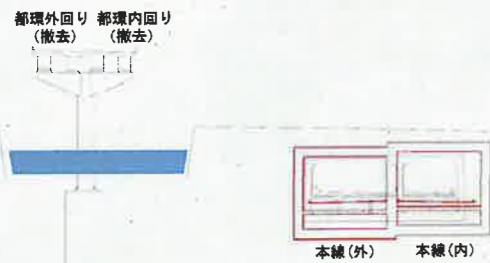
工程区画割



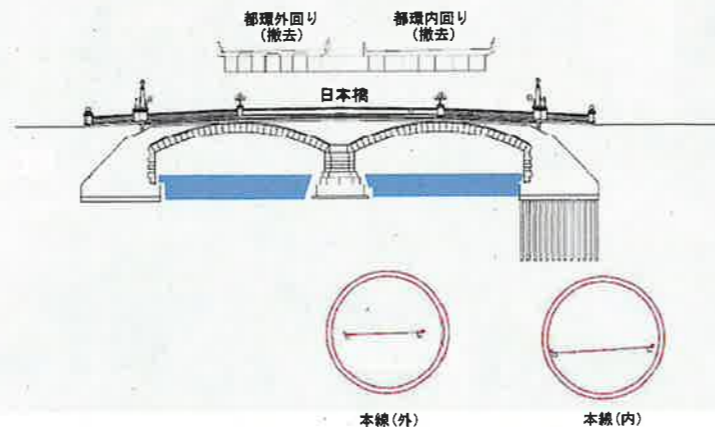
縦断面図



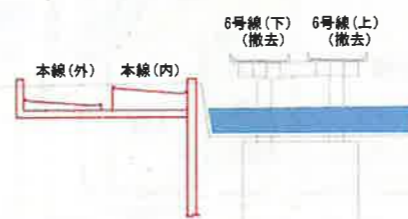
断面① (開削部)



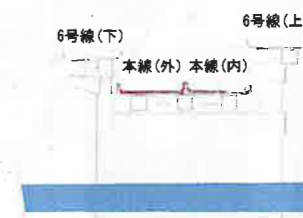
断面② (シールド部)



断面③ (擁壁部)



断面④ (高架部)



東京駅前常盤橋プロジェクトの計画概要

<計画概要>

□ 計画名称	大手町二丁目常盤橋地区第一種市街地再開発事業				
□ 計画地の位置	東京都千代田区大手町2丁目、中央区八重洲1丁目				
□ 地域地区	商業地域、防火地域、大手町・丸の内・有楽町地区地区計画、都市再生特別地区、特例容積率適用地区				
□ 指定容積率	1,300% (1,510% ※ 既決定の都市再生特別地区)				
□ 基準建ぺい率	80% (70% ※ 既決定の都市再生特別地区)				
□ 都市再生特別地区の区域面積	約3.5ha (D-1街区)				
□ 計画容積率	1,760%				
□ 建築物の高さの最高限度	390m				
□ 敷地面積	約31,400㎡				
□ 棟別諸元	全体	A棟	B棟	C棟(変電所など)	D棟(下水ポンプ場)
□ 主要用途	—	事務所、店舗、駐車場等	事務所、店舗、駐車場等	店舗、変電所、駐車場等	事務所、下水ポンプ場、駐車場等
□ 延べ面積(容積対象延べ面積)	約686,000㎡ (約552,000㎡)	約146,000㎡	約490,000㎡	約20,000㎡	約30,000㎡
□ 階数/最高高さ	—	地上40階・地下5階 /約212m	地上61階・地下5階 /約390m	地下4階	地上9階・地下3階 /約65m
□ 着工(予定)	2017年度 平成29年度	2017年度 平成29年度	2023年度 令和5年度	2017年度 平成29年度	2017年度 平成29年度
□ 竣工(予定)	2027年度 令和9年度	2021年度 令和3年度	2027年度 令和9年度	2027年度 令和9年度	2022年度 令和4年度

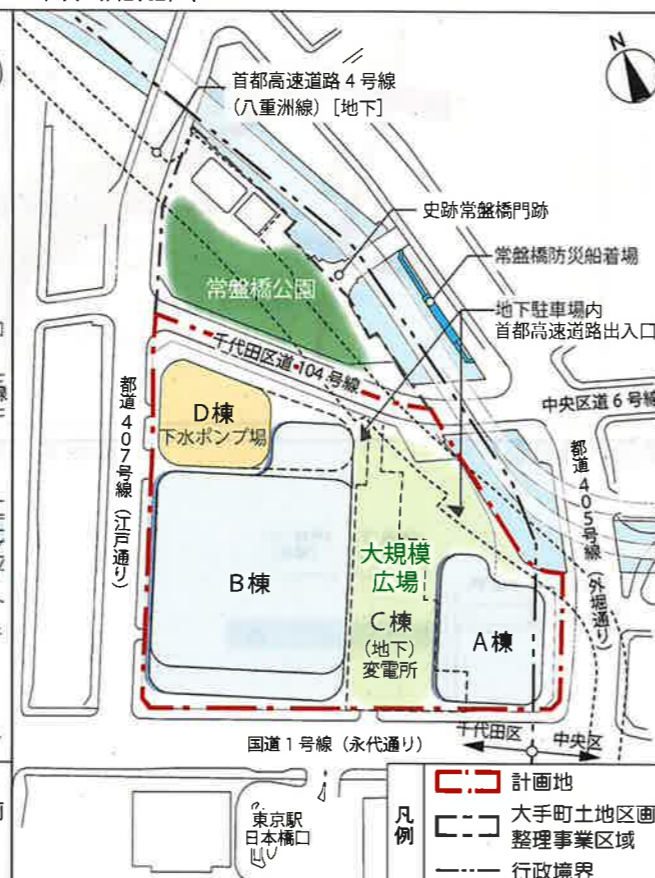
<位置図 S=1:8,000>



<現況配置図>



<計画配置図>



<イメージパース>



■北東側(日本橋方面)から計画地方面を望む

■ 都市再生への貢献

1 広域的な都市基盤の更新、歩行者ネットワーク・広場等の整備

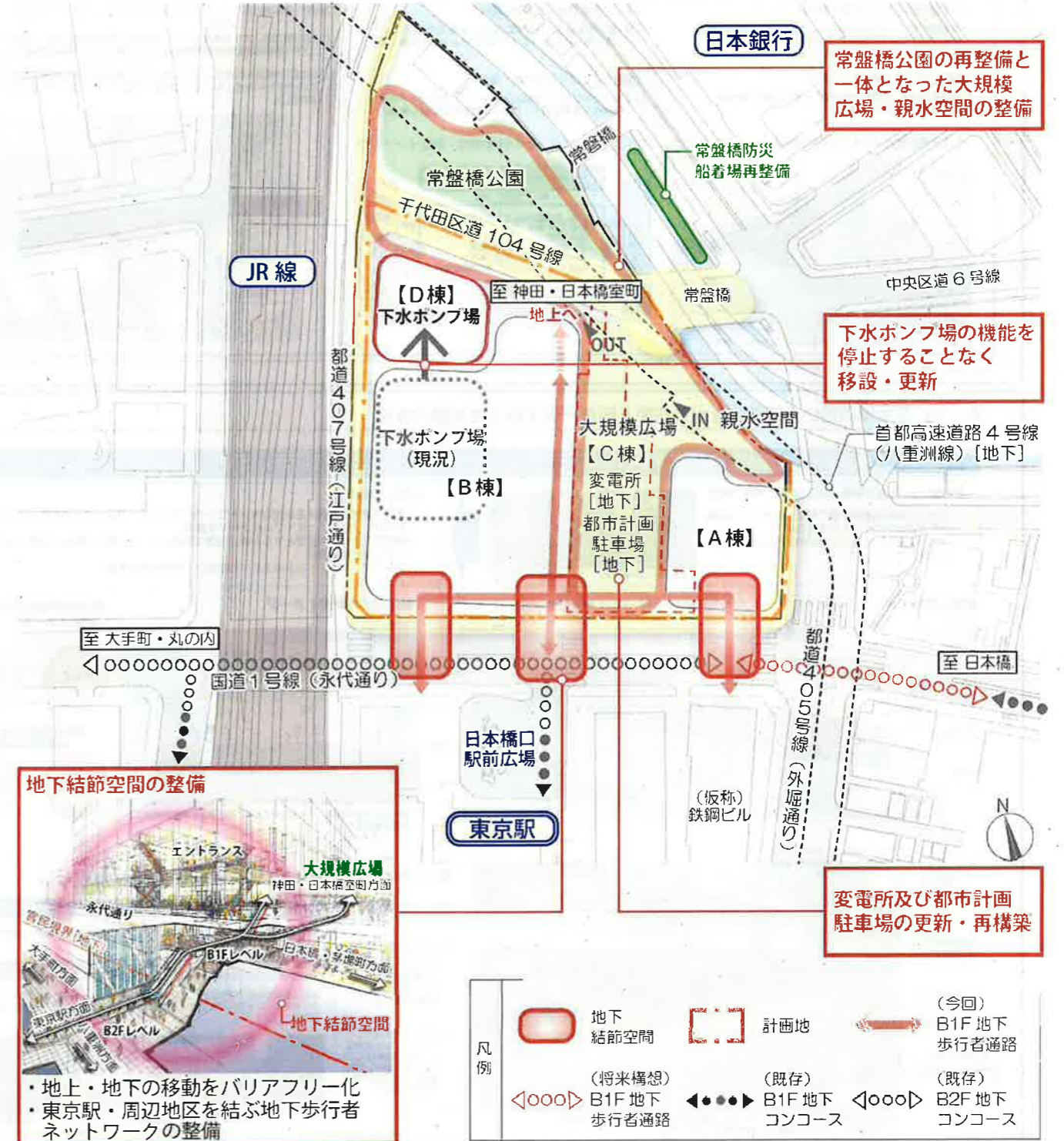
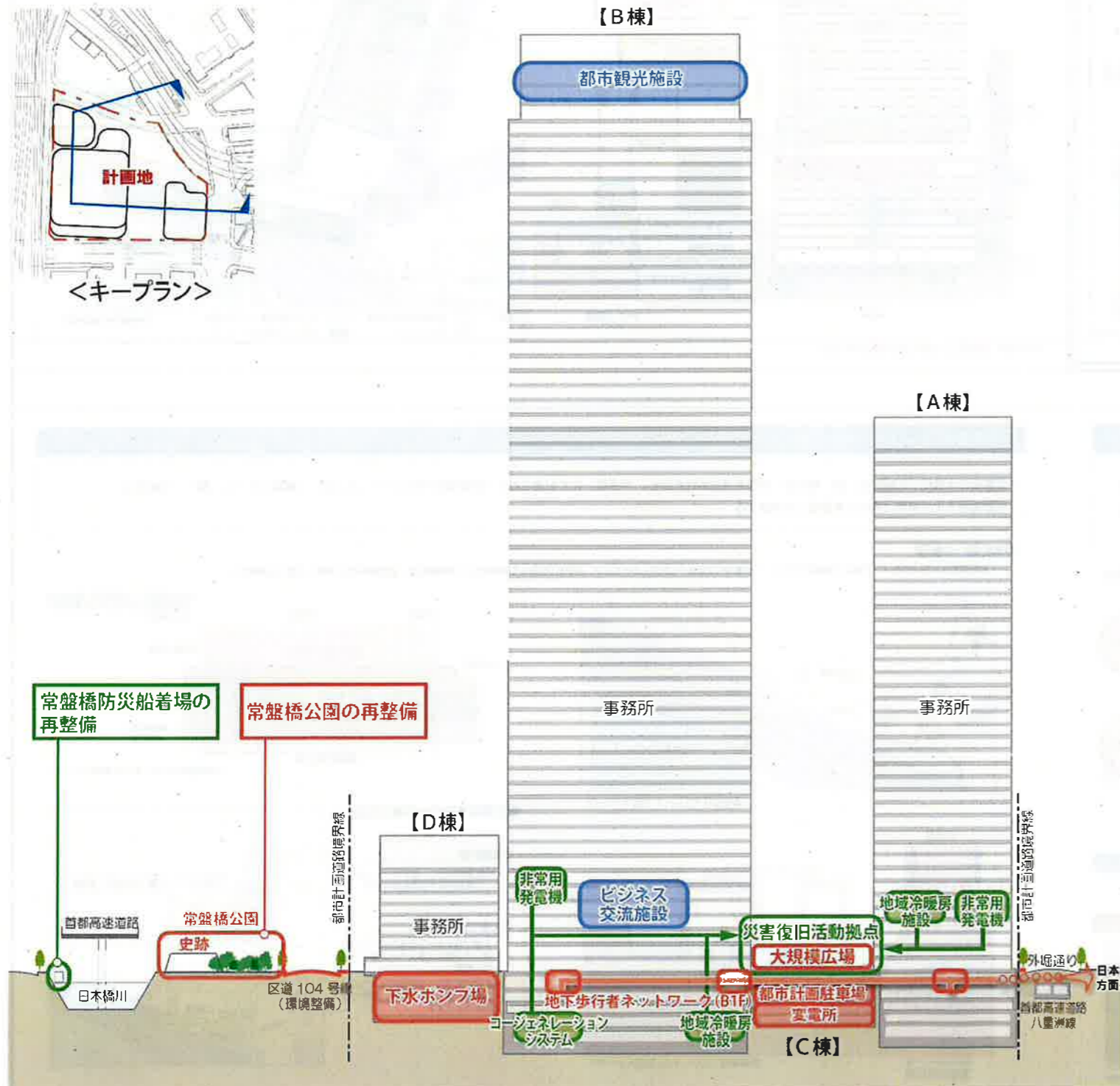
- (1) 下水ポンプ場・変電所・都市計画駐車場の更新・再構築
- (2) 東京駅・周辺地区を結ぶ地下歩行者ネットワークの整備
- (3) 常盤橋公園の再整備と一体となった大規模広場・親水空間の整備

2 国際競争力強化を図る都市機能の整備

- (1) 「東京国際金融センター」構想の実現に資するビジネス交流機能の導入
- (2) 国際都市東京の魅力を高める都市観光機能の導入

3 高度防災都市づくりと環境負荷低減

- (1) 災害時復旧活動の拠点となる広場整備、帰宅困難者対策
- (2) 自立・分散型エネルギーの導入と水の自立化
- (3) 省エネルギー化による環境負荷低減



首都高速道路の地下化や水辺の賑わい創出に向けた取組

〔首都高日本橋地下化に関するこれまでの経緯〕

- H14.4 東京都心における首都高速道路のあり方委員会 提言書とりまとめ
- H18.9 日本橋川に空を取り戻す 提言書とりまとめ
- H24.9 首都高速の再生に関する有識者会議 提言書とりまとめ
- H26.11 首都高規模更新事業の事業化
- H28.5 日本橋川沿いの3地区を国家戦略特区の都市再生プロジェクトに追加
- H29.7 国土交通大臣、東京都知事
「日本橋周辺のまちづくりと連携し、首都高速道路の地下化に向けて取り組む。」
- H29.11~H30.7 「首都高日本橋地下化検討会」開催
首都高地下化ルート公表



日本橋川沿いエリア共通の取組

【日本橋川沿いの水辺空間の創出】

○日本橋川沿い5地区が連携して、歴史や水辺に配慮したオープンスペースの創出や歩行者ネットワークの形成、日本橋川沿いの連続的な賑わいの創出を図る。

【首都高地下化の実現に向けた協力】

○首都高速道路の整備及び管理に必要な空間の創出等首都高地下化の取組に協力する。

【エリアマネジメント組織の検討】

○官/民/地元および日本橋川沿い5地区が連携し、「仮」日本橋川沿いエリアマネジメント」を設置する。

【景観ガイドラインの作成・運用】

○エリアマネジメント組織の取組として、景観ガイドラインの作成・運用を図り、川沿いの景観形成に取り組む。

〔参考〕日本橋川沿いエリアのまちづくりビジョン2017（中央区）

○日本橋川沿いエリアのまちづくりを千載一遇の好機と捉え、名橋「日本橋」上空の首都高速道路の移設撤去及び日本橋川再生の取組を推進する。

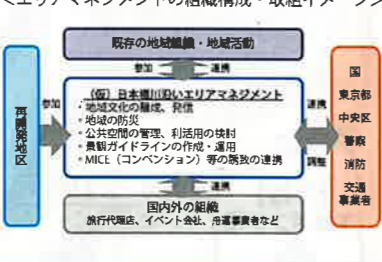
○国際都市東京を代表する世界に誇る日本の魅力的な水辺景観の形成や、歩行者中心のまちの形成に向けた水辺空間や水辺のネットワーク形成に向け、地区間連携を図る。



<日本橋川沿いの水辺空間の整備イメージ>



<エリアマネジメントの組織構成・取組イメージ>

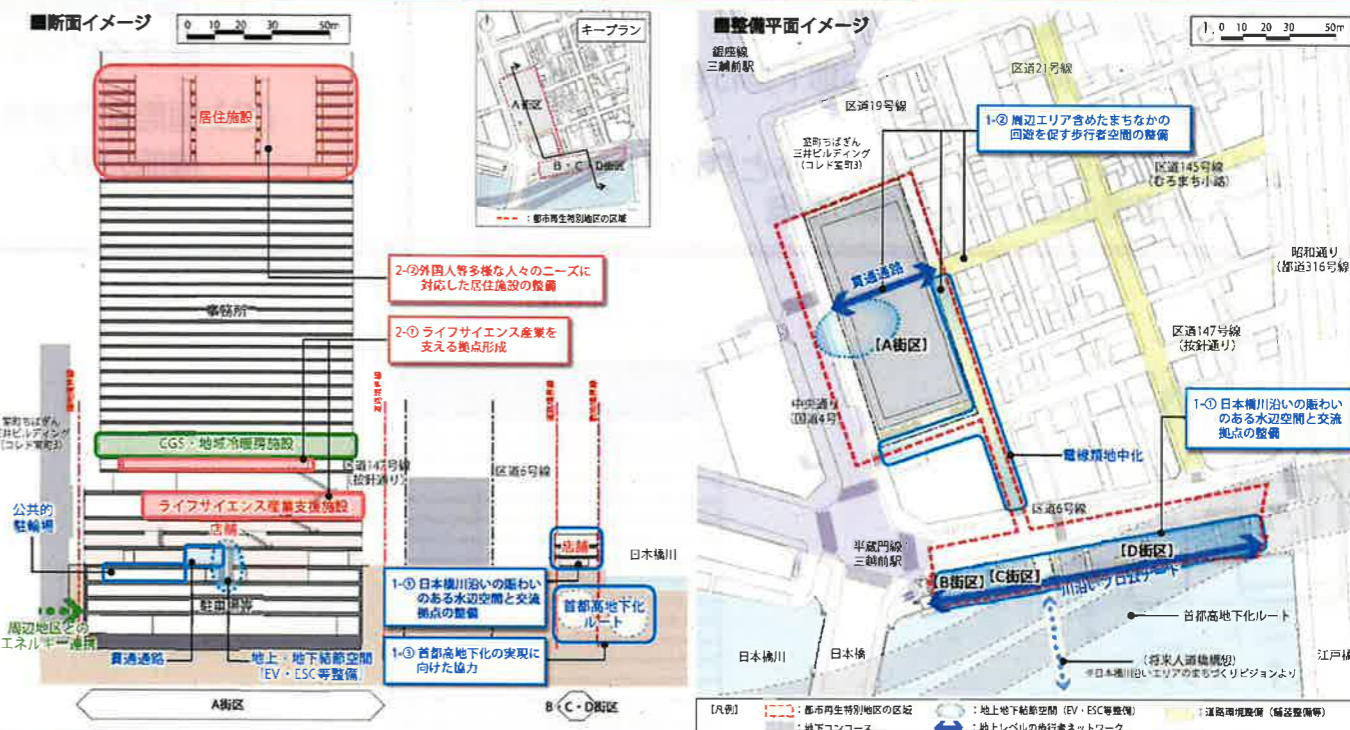


※上記パースは、日本橋一丁目中地区都市再生特別地区 提案書より抜粋

今後の検討、協議等により変更となる可能性があります。

2. 都市再生への貢献

- 1) 日本橋川沿いの連続的な水辺空間と回遊を促す歩行者基盤の整備
 - ① 日本橋川沿いの賑わいのある水辺空間と交流拠点の整備
 - ② 周辺エリアを含めたまちなかの回遊を促す歩行者空間の整備
 - ③ 首都高地下化の実現に向けた協力
- 2) 国際競争力の強化に資するライフサイエンス拠点及び居住環境の形成
 - ① ライフサイエンス産業を支える拠点形成
 - ② 外国人等多様な人々のニーズに対応した居住施設の整備
- 3) 防災対応力強化・環境負荷低減
 - ① 帰宅困難者支援機能の整備
 - ② 環境負荷低減の取組



今後の検討、協議等により変更となる可能性があります。

2. 1) 日本橋川沿いの連続的な水辺空間と回遊を促す歩行者基盤の整備

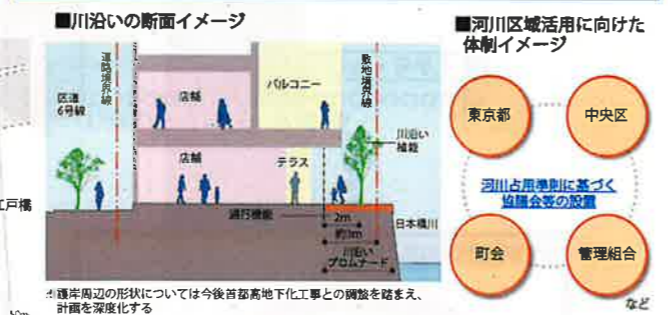
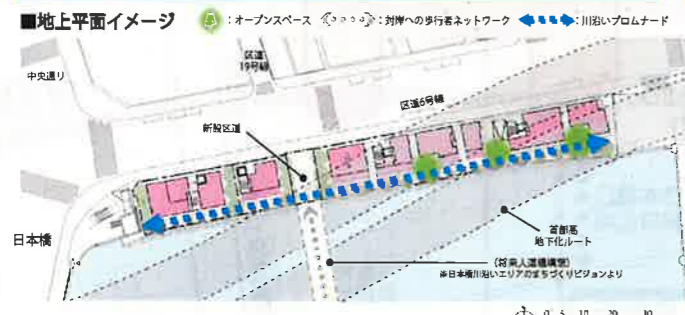
① 日本橋川沿いの賑わいのある水辺空間と交流拠点の整備

日本橋川沿いの水辺環境・歩行者空間の特徴・課題

- 川沿いの街区は建物が建ち詰っており、日本橋川の水辺に近づくことができない
- 川沿いで賑わいを感じる場所や人々の憩いの空間が不足している

当地区の整備内容

- 周辺の開発と連続する水辺のネットワーク形成のため、川沿いに水辺を感じることのできるオープンスペース・プロムナードを整備
- 開放的な川沿いの空間とするため、低層の施設とし、川に面して賑わいを感じることのできる施設等を配置
- エリアマネジメントによるエリアの賑わい・景観形成の推進



■エリアマネジメントによるエリアの賑わい・景観形成の推進

当地区での将来に向けた方針

- 仮 日本橋川沿いエリアマネジメント
 - 現在日本橋川沿いの5地区の再開発が段階的に進められており、各地区の連携により、日本橋川沿いの水辺の賑わい、景観形成を推進する
- 日本橋室町エリアマネジメント
 - 現在日本橋室町エリアマネジメントでは国家戦略特区分の活用を受け、公共空間の管理やイベントが行われており、本計画も連携することでエリア全体での価値向上を目指す
- 既存の日本橋室町エリアマネジメントと連携し、日本橋室町エリア全体での賑わい、景観形成、公共空間の管理や利用等を推進

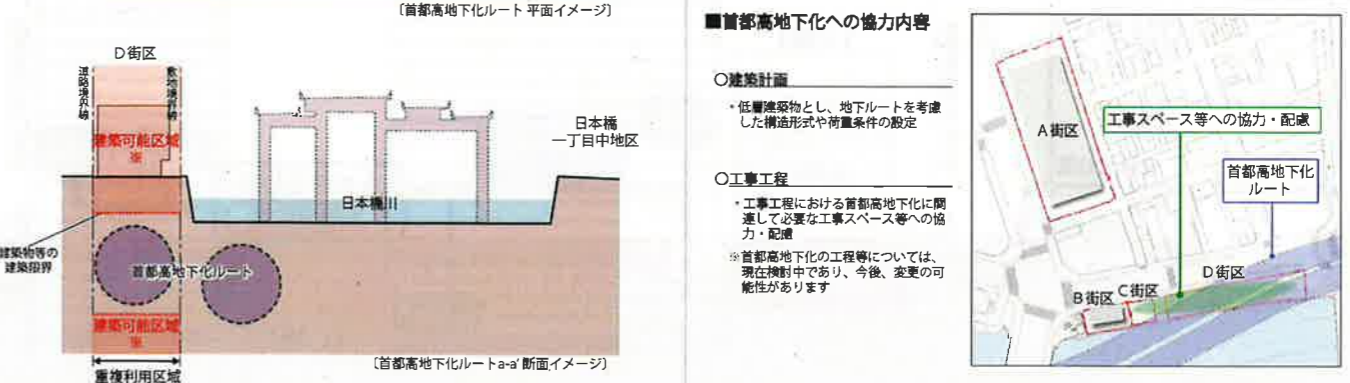
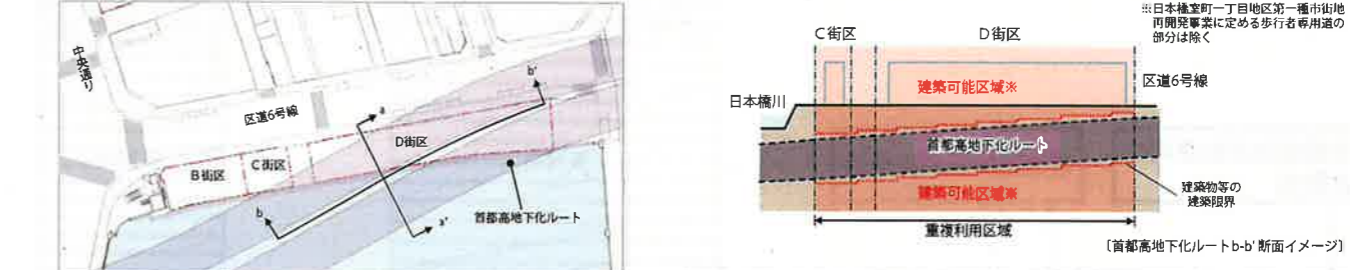
今後の検討、協議等により変更となる可能性があります。

③ 首都高地下化の実現に向けた協力

・首都高日本橋地下化検討会（国、東京都、首都高速道路株式会社、中央区）にて公表された「首都高地下化ルート」および、「事業スキーム（案）」を踏まえ、首都高地下化の実現に向けた各種協力を実施する

■本計画への影響

・本計画地内においては、C・D街区に首都高地下化ルートが敷地内を通過する計画とされており、本計画で整備する施設計画との計画調整や、首都高地下化工事等への協力を実施する



今後の検討、協議等により変更となる可能性があります。

2. 都市再生への貢献の考え方

①国際競争力の強化に資する金融・ライフサイエンス拠点の形成

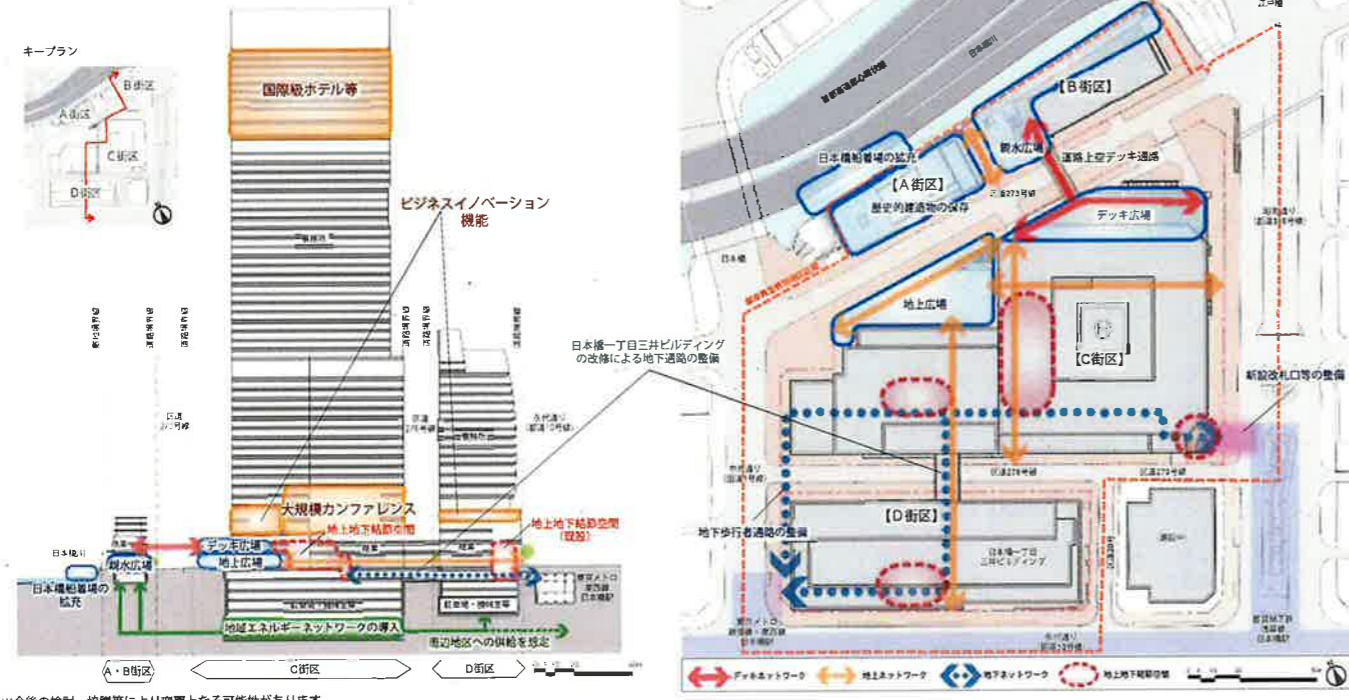
1. 都心型複合MICE拠点の整備
2. (仮称)日本橋ビジネスインベーション拠点の整備

②日本橋川沿いの連続的な水辺空間と歩行者基盤の整備

1. 歴史・文化の蓄積や水辺環境をいかした街並みの形成と交流拠点の整備
2. 日本橋川沿いのオープンスペースの面的な歩行者ネットワーク形成とオープンスペースの整備
3. 周辺と連携したまちの魅力・活力の向上を目指すエリアマネジメントの実施

③防災対応力強化と環境負荷低減

1. 周辺地域の安全・安心を支える面的エネルギーネットワークの整備
2. 帰宅困難者支援機能の整備
3. 環境負荷低減への取組



※今後の検討・協議等により変更となる可能性があります。

3. ②日本橋川沿いの連続的な水辺空間と歩行者基盤の整備

1. 歴史・文化の蓄積や水辺環境をいかした街並みの形成と交流拠点の整備

日本橋の水辺環境の課題

- ・川沿いの街に建物が増えて詰まっており、水辺に近づくことが困難
- ・川沿いにオープンスペースが不足し、にぎわいや憩いを感じられない
- ・コンクリート護岸が冷たい印象を感じさせる
- ・接岸待ちの船舶に渋滞が発生することがある

当地域の整備内容

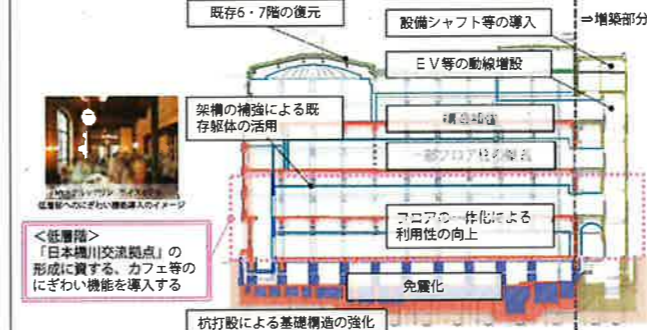
- ・歴史的建造物の外壁保存による水辺の景観を保全
- ・川沿いのオープンスペースやプロムナードを整備
- ・川沿いの街に店舗等を配置し、にぎわいと交流機能を導入
- ・船着場の増設により、舟運活性化と観光需要の受入れを図る

<歴史的建造物保存計画の概要>



- ・外壁保存により、日本橋の中心にあった風格ある景観を保全
- ・躯体改修による内部空間の利便性確保
- ・店舗等の導入による水辺空間のにぎわい強化への寄与

<躯体改修工事の考え方>



※躯体改修の方法については、現時点の想定であり、今後の調査及び行政協議により変更になる可能性があります。 ※今後の検討・協議等により変更となる可能性があります。

<水辺空間整備のイメージ>



八重洲一丁目北地区都市計画素案の概要 [東京建物株式会社]

都市再生への貢献

※計画内容は、今後の詳細設計及び関係機関協議により変更される場合があります。

1 日本橋川沿いの連続的な水辺空間と歩行者ネットワークの整備

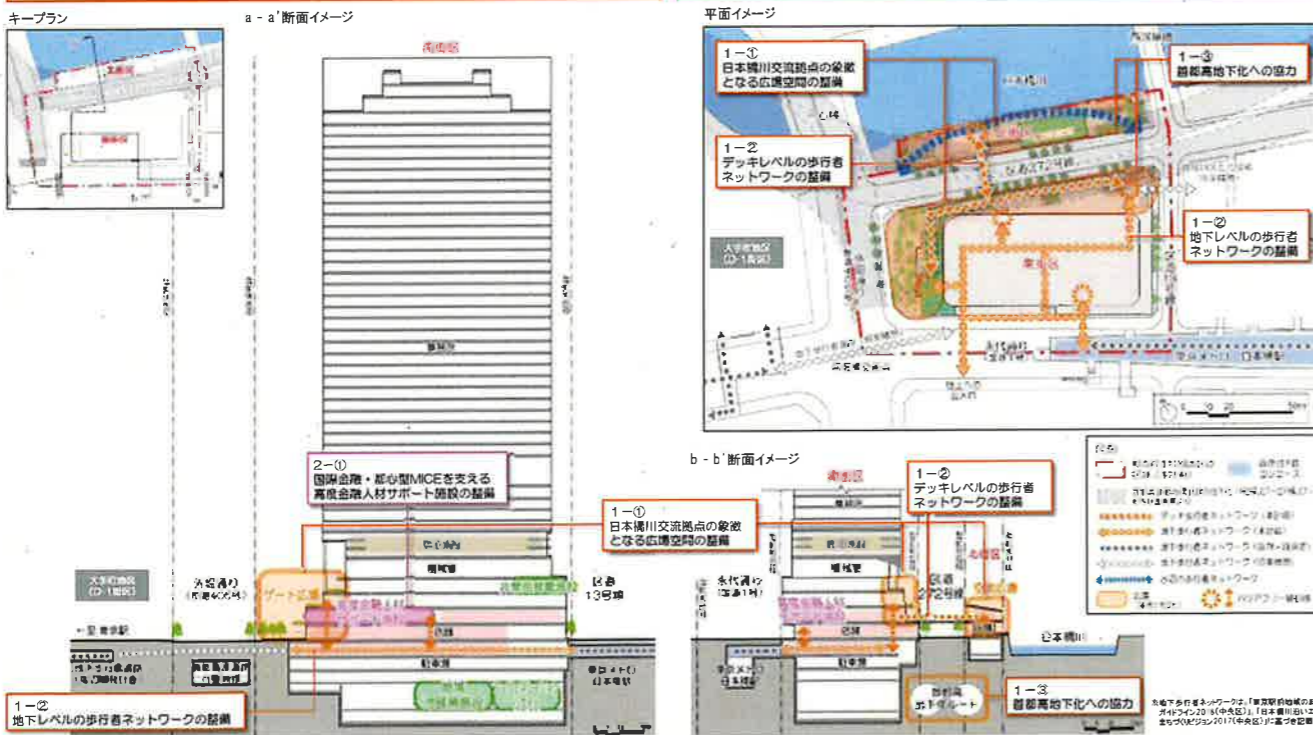
- ① 日本橋川交流拠点の象徴となる広場空間の整備
- ② 駅・まち・川をつなぐ地上・地下・デッキレベルの歩行者ネットワークの整備
- ③ 首都高地下化の実現に向けた協力

2 国際競争力の強化に資する金融拠点の形成

- ① 国際金融・都心型MICEを支える高度金融人材サポート施設の整備

3 防災対応力強化と環境負荷低減

- ① 地域の防災対応力強化に向けた取組
- ② 環境負荷低減に向けた取組



日本橋川沿いの連続的な水辺空間と歩行者ネットワークの整備

※計画内容は、今後の詳細設計及び関係機関協議により変更される場合があります。

① 日本橋川交流拠点の象徴となる広場空間の整備

【整備内容】

- 河川区域内の護岸上部も活用し、日本橋川交流拠点の象徴となる、地上レベルからも2・3Fレベルからも水辺を楽しめる重層的な広場空間（立体広場（合計約2,400㎡））を整備する。
- 日本橋川沿いの5地区が連携して整備する日本橋川沿いの水辺空間の入口となるゲート広場（約1,000㎡）を整備する。
- エリアマネジメントにより、河川区域内の賑わい・交流空間の創出に取り組む。

■日本橋川交流拠点の象徴となる立体広場（合計約2,400㎡）の整備

【地上レベルの空間整備】

- 北街区や河川区域内の護岸上部、西岸側護岸を再整備し、川沿いの滞在・通行空間の創出や、オープンスペースネットワークの拡充を図る。
- 川沿いに低層の賑わい施設を配置し、水辺の賑わいを創出する。

【2F・3Fの空間整備】

- 北街区の2Fや、南街区の2F、3Fレベルにオープンスペースを整備し、首都高地下化により修繕された日本橋川を眺める眺望点を創出する。



<整備イメージ> - 日本橋川交流拠点の象徴となる立体広場 -

■日本橋川沿いの水辺空間の入口となるゲート広場（約1,000㎡）の整備

【整備内容】

- 中央区が策定した「日本橋川沿いのまちづくりビジョン2017」では、周辺の5地区のまちづくりが連携して日本橋川沿いの水辺空間の創出に取り組むとしており、当地域はその玄関口としての環境整備が期待されている。
- 南街区の東京駅側日本橋川沿いの水辺空間の入口となるゲート広場（約1,000㎡）を整備する。



<整備イメージ> - 日本橋川沿いの水辺空間の入口となるゲート広場 -

■エリアマネジメントによる河川区域内の賑わい・交流空間の創出

- 河川区域内の活用に向けた体制を構築し、美観形成や維持管理を行うことで、日本橋川沿いに公有地・民間敷地の一体的な賑わい・交流空間の創出を図る。

<河川区域内の整備イメージと活用に向けた体制イメージ>



<整備イメージ> - 日本橋川沿いの水辺空間 -

